



こけしはどんな目的で作られたの

もともと子どもの人形だった

こけしは、円筒形のどうに丸い頭をつけており、かわいらしい女の子がかいてありますね。大きさは、ふつう20～30センチメートルです。

こけしは、もともと、東北の山村で作られていた、子どものための人形でした。そのうち、東北の温泉地に休養にきていた人たちが、みやげ物として買っていくようになってから、全国に広がったものです。

こけしは、ろくろで木をけずって作ります。ろくろで一つずつひくので、一つひとつ変わったものができ、作者の個性が表れます。しかも木製ですから、こわれにくく、保存しやすいものです。白い木のはだに原色を使って、線や花などの模様をかきますので、気品のあつ美しさが表れます。

東北以外の地方でも、作られるようになった

今では、東北地方だけでなく、神奈川県や群馬県などでも作られています。観光みやげ用として、小型で男女一対のものも、各地で売られています。また、創作こけしといって、新しいデザインによる、高級品も作られています。

おもなこけしの産地は、宮城県の鳴子、青森県の温湯や遠刈田、秋田県の川連、山形県の蔵王温泉、福島県の土湯などがあります。（監修・保岡 孝之）

